地域共生社会
の実現に向けて

そもそも地域共生社会って…？

■ 制度・分野ごとの**「縦割り」**や**「支え手」「受け手」**という**関係を超えて**,

地域住民や**地域の多様な主体**が**参画**し,

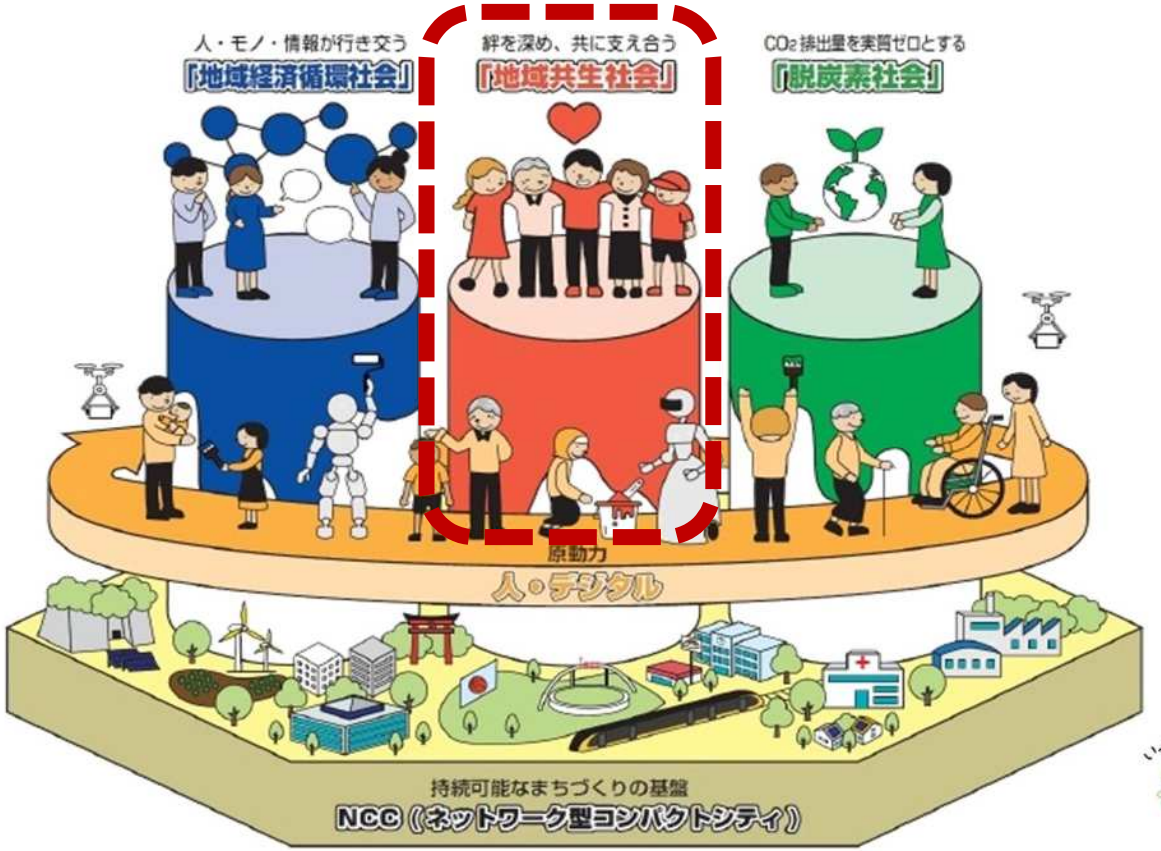
人と人, 人と資源が世代や分野を超えつながることで,

住民一人ひとりの暮らしと生きがい, 地域をともに創っていく社会

出典：厚生労働省HP, 厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」

スーパースマートシティの取組

「地域共生社会」とは
NCCの強みを生かし，性別，
国や地域，障がいの有無など
にかかわらず，
子どもから高齢者まで
誰もが生きがいを持ち，
住み慣れた地域で
思いやりがあふれ，
絆を深めながら，
孤立や孤独に寄り添い，
支えられる社会です。



●実現したい社会・ありたい姿

地域のために
活動したいけれど，
人手がいない…

若い人たちを
取り込むには
どうしたら…

地域イベントの計画

土日なら
お手伝いできます

子どもの面倒なら
いつでも言ってね

相互理解・相互協力

地域住民
みんなが支え手！

⇒ 「誰かのために何かしてみたい」という
考え・思いやりであふれ　それを一緒に叶える
「仲間」がいる。

●発表にあたり取り組んできたこと

「地域共生社会を実現したい」
という思いのもと　すでに活動している

地域団体・民間団体・NPO法人

が提供する　地域の「居場所」を取材し
地域共生社会の実現に向け　私たちができることを
現場の声などをもとに考えてみた

●取材した居場所

1. ふれあい・いきいきサロン（下栗4丁目自治会）
   （自治会組織・宇都宮市）

2. みんなのおうちカフェ　花りんご
   （労働者協同組合ﾜｰｶｰｽﾞｺｰﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ事業団・矢板市）

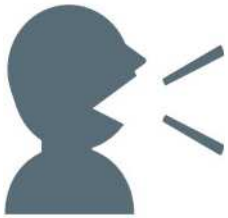
3. LAC横瀬, AREA898, AREA899, NAZELAB
   （株式会社LIFULL, 横瀬町, ﾀﾃﾉｲﾄ・埼玉県横瀬町）

1. ふれあい・いきいきサロン(下栗4丁目自治会)

どんな場所？ ▷ 地域の誰もが集える身近な居場所

どこで開催？ ▷ 公民館や集会所など

何をする？ ▷ おしゃべり、輪投げ、健康体操など



参加者・スタッフの声

席があることが嬉しい！

会話が楽しい！

サロンが続いてほしい！

こんな課題が・・・

高齢者が多い ▷

こんな工夫を！

自治会・育成会などの各団体が連携 ▷ 子どもも参加！

しかしまだまだ・・・

女性の参加者が多く、**男性の参加者が少ない**

皆さんにお願い

市や民間・NPO団体等も参加してほしい！

土日も開催！

求！出前講座

2. みんなのおうちカフェ　花りんご

1. 施設について
【実施主体】労働者協同組合ﾜｰｶｰｽﾞ ｺｰﾌﾟ・ｾﾝﾀｰ事業団

【場　　所】矢板市末広町7-1（JR矢板駅徒歩5分）

【活動内容】
　地域活動支援センター（障がい者の機能訓練，社会適応訓練，入浴等のサービスを提供する事業）の一角を「地域共生拠点」のカフェとして開放（現在は，新型コロナウイルス等の影響を考慮し，弁当宅配）

【活動を始めたきっかけ】
　組織の理念として，働く人やサービス利用者，家族，地域で暮らす人たちとの“協同”を掲げ，地域に根差したこの活動を開始
　月1回，子ども食堂・地域食堂を開催。開業5年目

▲施設外観

▲手作りのお弁当（美味しかった）

2. 見学内容

【職員へのインタビュー（斎藤さん・豊田さん）】

Q	地域共生の取組を地域に定着させるために取り組んでいることは？
A	とにかくコツコツ取り組むこと。地域に活動が根付き，地域の方が手伝いに来てくれるようになった。
Q	活動を始めて変わったことは？
A	ひきこもりだった方が毎日顔を出してくれるようになり，カフェの店員をしてもらったことも。地域の方は，自分の居場所があるという安心感を感じてもらえている。
Q	地域共生社会の実現に向けて大切なことは？
A	障害あるなしに関係なく，全員同じように接すること。身近に色々な立場の人が居れば，それが「普通」になる。
Q	課題として捉えていることは？
A	市内全域まで活動が認知されていない。また，常に人手不足であり，やりたいことができていない。効果的・効率的な周知に悩んでいる。

3. 人物紹介

青木さん

かつては重度のひきこもりを経験。この施設を利用する中で，
「自分にできることは何か」を考えるように。今は正規職員として勤務
「支えられる側」から，「支える側」に！

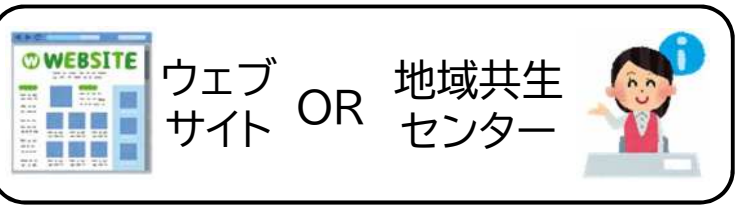
● 地域食堂とは？
利用対象者は「誰でも」
地域の人が集い，つながる
居場所として機能
⇒ つながるきっかけに！

3. LAC横瀬, AREA898, AREA899, NAZELAB

項目	LAC横瀬、Area898、Area899	NAZELAB
イメージ		
活動内容	• 町民と町外からくる企業やフリーランスとの交流機会の創出 • 町民同士の交流イベントの開催 • コワーキング兼宿泊施設 • 横瀬町との連携プロジェクト創出「よこらぼ」	• フリースクール • NAZELAB図書館 （放課後に自由に学び・交流） • 問いの芽 （工作や実験を通じた体験機会の提供）
運営者	株式会社LIFULL 横瀬町	一般社団法人タテノイト

項目	LAC横瀬、Area898、Area899	NAZELAB
対象ユーザー	• LAC横瀬 町民、町外からの訪問者 （企業、フリーランス） • Area898、Area899 町民、LAC横瀬の滞在者	• 学校へ行かないことを選んだ子供 • 学校以外の学びの場を求めている子供 • 子供との交流を通じた学びを求めている大人
課題認識	• 施策対象が若者中心となってしまっている • シニア世代への施策が実施出来ていない • 創出されたイベントや交流の定着化	• 助成事業が終えた後の運営資金 • 都内の感度が高いユーザーに響く一方、町内ユーザーに訴求が届いていない • 町内小学校との連携が出来ていない
対策	• コロナ収束に伴うワークスタイル（ノマド・リモート等）の変化を考慮した施策の見直し • シニア世代に対する施策検討	• 基盤を安定させるための事業創出 • 町内小学校との連携強化 （例．出張授業）
コラボレーションの可能性	• 「よこらぼ※」を通じた共同プロジェクト ※　企業・団体・個人が、実施したいプロジェクト・取り組みを横瀬町で実験する仕組み	–

●提言内容



「受け手」と「支え手」のマッチング機能

① 「受け手」の困りごとと「支え手」の技術・ノウハウを結びつけ，課題解決に導く！

② 「受け手」と「支え手」という関係性にとらわれず，誰しもが活躍できる社会に！